

NT (準絶滅危惧)

チョウ目 アゲハチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

ウスバキチョウ

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Parnassius evermanni daisetsuzanus Matsumura, 1926

日本固有亜種

小型。北海道の大雪山系、東大雪、十勝連峰の高山帯に分布する。種として国外では、朝鮮半島、中国、ロシア、アラスカなどに分布する。成虫は、年1回6~7月に発生し、食餌植物はケマンソウ科のコマクサ。生息地は、標高1,500m以上の高山帯の山頂部や稜線付近の岩礫地や砂礫地である。生息地は人為的な環境の変化が及びにくい場所であるが、分布域が狭いため、気候変動による影響が懸念され、本種の出現期が以前と比較して早くなっているという報告がされている。国指定の天然記念物および北海道指定の指定希少野生動物植物種。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 シロチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

ミヤマモンキチョウ浅間山系亜種

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Colias palaeno aias Fruhstorfer, 1903

日本固有亜種

小型。中部地方の浅間山系に分布する。成虫は、年1回7月頃に発生し、食餌植物はツツジ科のクロマメノキ。生息地は、山岳地域の稜線部や山頂部の高山植物群落や湿原など。ササ類などの侵入による植生の変化(54)のほか、近年、生息地でモンキチョウが見られるようになってきており、その影響が懸念される。群馬県、長野県指定の天然記念物および長野県の指定希少野生動物植物。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 シロチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

ミヤマモンキチョウ北アルプス亜種

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
R	NT	NT

Colias palaeno sugitanii Esaki, 1929

日本固有亜種

小型。中部地方の飛騨山脈に分布する。成虫は、年1回7~8月に発生し、食餌植物はツツジ科のクロマメノキ。生息地は、生息地は山岳地域の稜線部や山頂部の高山植物群落や湿原など。長野県、富山県指定の天然記念物。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)

チョウ目 シロチョウ科

カテゴリー判定基準：a), b)

クモマツマキチョウ八ヶ岳・南アルプス亜種

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
—	NT	NT

Anthocharis cardamines hayashii Fujioka, 1970

日本固有亜種

小型。本州中部の八ヶ岳および南アルプスに分布する。成虫は、年1回5~6月頃に発生し、食餌植物はアブラナ科のミヤマハタザオなど。生息地は、おもに標高1,000~2,000m付近の溪流、川原、崩壊地、崖地などである。八ヶ岳では近年確認されておらず、その他の場所でも減少傾向にある。生息地は攪乱頻度の高い場所であることから、生息地が安定化し(71)環境が本種の生息に不適になっているものと思われる。長野県指定の天然記念物および指定希少野生動物植物。

執筆者：中村康弘 (日本チョウ類保全協会)